

Business Report 2007

株式会社 **メルコホールディングス**

本 社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 (カミヤビル) TEL 052-251-6891 (代) FAX 052-241-7979
<http://melco-hd.jp/> (証券コード6676)

株式会社 **バッファロー**

本 社 〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15 TEL 052-619-1811 (代) FAX 052-619-1800
東京支店 〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2 茅場町タワー TEL 03-3523-3333 (代) FAX 03-3523-3300
本社分室 〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 (カミヤビル) TEL 052-251-6891 (代) FAX 052-241-7979
<http://buffalo.jp/>



本誌の印刷には、環境に配慮した
植物性大豆油インキを使用しています。



印刷時に有害な廃液が出ない
「水なし印刷」で印刷しています。



メルコグループ

さらなる成長を図るために。

「デジタルホーム市場」を開拓

メルコグループは、常に市場の変化を先取りする製品開発に取り組み、パソコンユーザのニーズに応える新たな製品を市場に提案してきました。現在では、無線LAN、USBメモリ、外付・内蔵ハードディスク、ルータなど、多くの製品が国内シェアNo.1にランクされています。

今、世の中ではあらゆる家電製品がネットワークで結ばれる「デジタルホーム時代」が到来しつつあります。メルコグループはその市場を開拓する製品を積極的に展開しています。



株式会社メルコホールディングス
代表取締役社長 牧 誠

写真:読売新聞提供

大幅に売上が増加

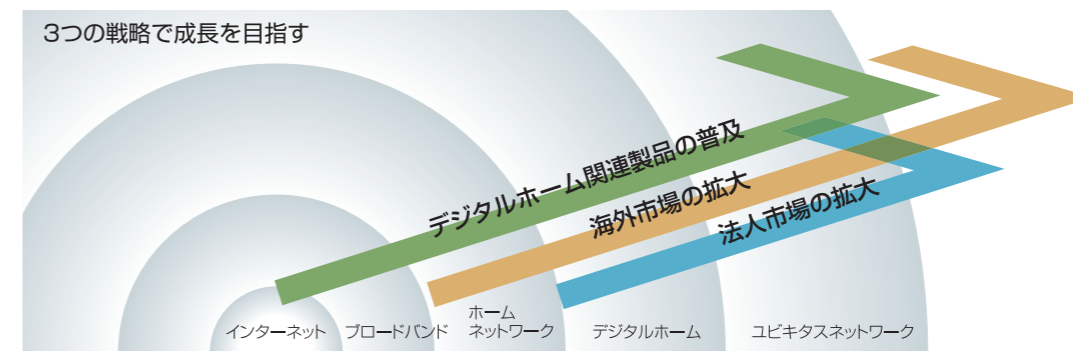
2007年3月期、メルコグループは国内外の新たな市場の開拓に取り組み、大幅に売上を伸ばしました。特にストレージ製品の売上を前期比21.3%増と伸ばすことができました。これは、個人ユーザによる動画利用の増加や、法人向けネットワークハードディスクの需要拡大によるものです。また、無線LANの売上についても、ゲーム機などパソコン以外にもユーザ層を広げたことで13.5%増と伸びました。

「海外向け」「法人向け」の戦略を推進

海外市場の開拓は、メルコグループが力を注いでいる成長戦略の一つです。これまでの取り組みが実を結び、海外子会社の売上高は前期比68.4%増と大幅に伸びました。利益よりも販売拡大を優先したため、利益面での寄与は大きくありませんでしたが、将来にわたって成長を続けていくための基盤をつくる上で、海外の販路を拡大させていくことは大切な先行投資であると考えています。欧州・北米に続き、アジアの開拓も目指して、海外戦略を積極的に推進していきます。

また、ネットワークハードディスクが国内外の法人向けに新たな市場をつくりつつある中、今後は法人市場の開拓にも力を注いでいきます。

メルコグループはこれからも「デジタルホーム」「海外市場」「法人市場」の3つの戦略を柱にさらなる成長を目指し、便利で豊かな社会の発展に貢献してまいります。



進化する社会インフラ

私達の社会生活を支える基盤を社会インフラと言います。道路、電気、ガス、水道などはその代表例で、この10年ほどの間にインターネットが無くてはならないものとして社会インフラのひとつに加わってきたのは記憶に新しいところです。その社会インフラの中で今後大きく進化しようとしているのが、放送と電話です。

顕在化してきたデジタル化の波

このところ、テレビのコマーシャルなどで良く「光回線、IP電話」を目にします。IP電話はインターネットの技術を使ったデジタル方式の電話で、最終的には電話はすべてIP電話になると考えられます。電話がデジタル化されるとアナログに比べて同じ回線でも多くの情報を送ることが出来ます。つまり一度に多くの人が通話できるようになり、さらに回線が光回線になれば飛躍的に伝送能力が上がります。また、地上波デジタル放送が開始されアナログのテレビ放送がなくなると、電波の有効利用が図られ携帯電話など他の用途に振り向けることができるようになります。今後も情報が増え続ける高度情報化社会にとって、情報のデジタル化は必然なのです。

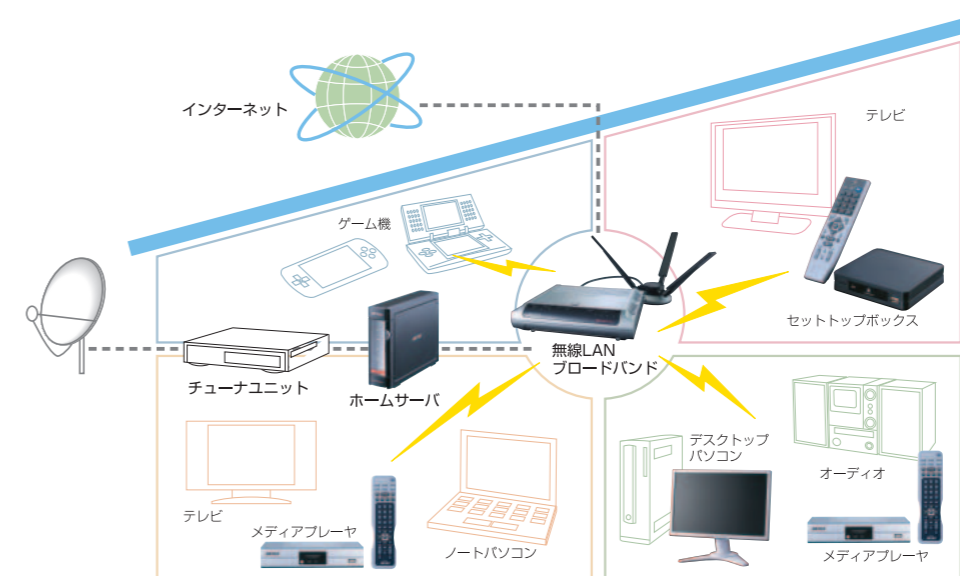
デジタル化 = ホームネットワーク

IP電話のIPはインターネットプロトコルの頭文字でまさにインターネットの技術を利用する電話です。つまり情報をデジタル化するということは、ネットワークに対応するということとかなり密接な関係にあり、今後、放送や電話がインターネットと同時に家庭内のホームネットワークで利用されるようになり、日本中の家庭で無線LANが利用されることとなります。また、放送がデジタル化されるとデータの蓄積も容易になりネットワークに接続されたハードディスクにどんどん録画して、パソコンからでもテレビからでも楽しむことが出来るようになります。

企業にも新たな動き

さて、デジタル化の波は家庭だけではなく、企業で使われている電話もデジタル化されようとしています。特に、IP電話の機能も併せ持った携帯電話が実用段階に入り、外出先では携帯電話、社内ではIP電話として利用しさらに内線電話としても使うことが出来るようになりました。この方式ではIP電話を利用するために無線LANを必要とするので、今後無線LANの企業への導入がさらに促進されると考えられます。

このように、今後起きようとしている社会変化は、メルコグループの得意としている分野であり、メルコグループは、テレビ、電話、パソコンなど様々なものをネットワークで結び、より便利で、楽しい社会の発展に貢献していきます。

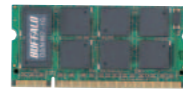


事業概要

Outline

メモリ製品

メモリモジュールはパソコンの記憶容量を増加させる部品です。容量が大きいほど一度に扱えるプログラムやデータの量が大きくなり、効率良く速く処理することができます。メモリ製品には、メモリモジュールの他に、手軽にデータが持ち運べる「USBフラッシュメモリ」、携帯電話やデジタルカメラで利用する「microSDカード」「コンパクトフラッシュ」などがあります。



メモリモジュール



USBフラッシュメモリ



microSDカード



カードリーダー/ライター

ストレージ製品

ストレージはソフトウェアやデータを保存する外部記憶装置です。主力の製品であるハードディスクにはパソコンに内蔵するタイプやパソコンの横に置いて使用する外付けタイプ、また、複数のパソコンから利用できるネットワークハードディスクがあります。パソコンで動画を利用する機会が増えていることから、必要な記憶容量も増加傾向にあるため、ハードディスクの増設需要が高まっています。その他DVDやMOなどさまざまな記憶装置があります。



Blu-rayドライブ



外付けハードディスク



ポータブルハードディスク



ネットワークハードディスク

ネットワーク製品/ブロードバンド

ネットワーク製品の代表的なものには、LANアダプタ、ハブ、無線LANなどがあります。ネットワーク製品を用いることで、複数のパソコンでデータを共有したり、インターネットを利用したりできるようになります。特にブロードバンドに区分される無線LANはわずらわしい配線が必要なく、ホームネットワークでの利用が増えています。



無線LANブロードバンドルーター



無線LANカード



スイッチングハブ

その他の製品

ワンセグ放送をパソコンで手軽に楽しめるワンセグチューナ「ちょいテレ」やインターネットビデオ配信の専用受信機であるセットトップボックスなどデジタルホーム関連製品があります。またマウスやキーボード、液晶ディスプレイなどの製品もその他の製品に含まれます。



マウス



液晶ディスプレイ



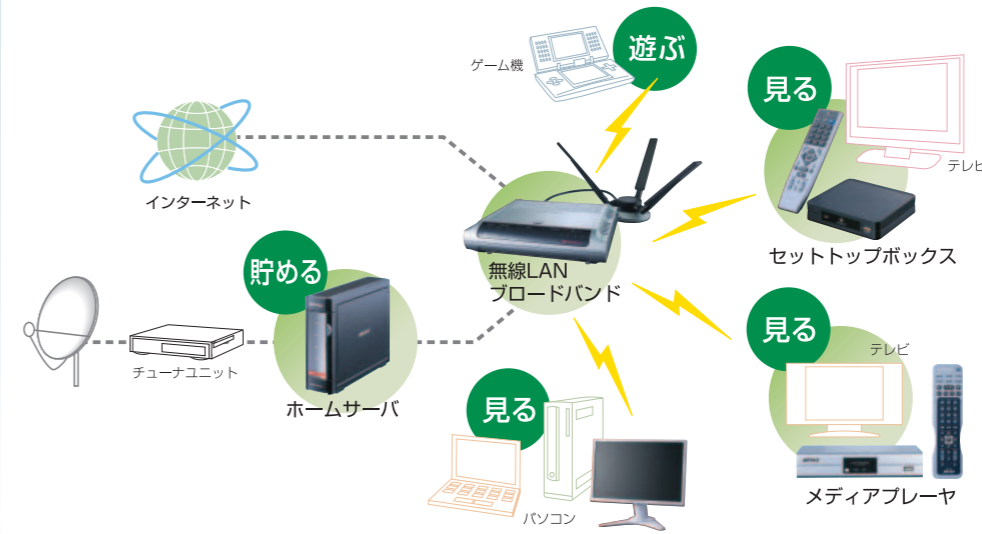
ワンセグチューナ



セットトップボックス

デジタルホーム

デジタルホームという使い方が普及すると、メルコグループの多くの製品に影響します。普通のテレビをネットワーク対応にし、パソコンの映像や音楽を視聴できるようにするためのメディアプレーヤ、そしてホームネットワークの中心となる無線LAN、さらにDVDレコーダやホームサーバの増設機となるネットワークハードディスクなど、多くの製品に波及効果が見込まれます。



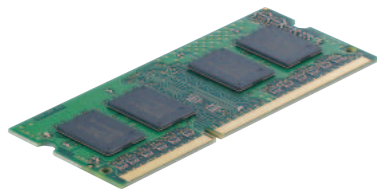
高性能を、もっと気軽に、もっと使いやすくするために。

メモリの進化を支えるバッファローの技術力

現在、世界中で使用されているほとんどのノートパソコンに搭載されている、世界標準規格に準拠したメモリモジュール。このメモリモジュールには、バッファローの設計が採用されています。

バッファローは電子部品の標準化を推進する米国JEDECの重要メンバーであり、現在主流のDDR1、DDR2に続いて次世代の高速メモリモジュール規格DDR3の仕様策定にも参画しています。DDR3は、現在普及しているDDR2と比べて2倍の処理スピードを実現し、また、消費電力を低減していることも特徴です。すでにバッファローは、DDR3規格の製品の販売を開始しています。

JEDECのメンバーとしてのバッファローの活動は、設計段階のシミュレーション、タイミング・負荷の調整、マザーボードメーカー各社との共同の動作評価、高性能なテスターを使用した実測による検証など、広範囲にわたっています。今後も次世代の高速メモリモジュール開発に積極的に取り組んでいきます。



ホームネットワークの普及を加速させる「AOSS」

かつて無線LANは「接続設定」や「セキュリティ設定」の難しさが普及に向けての課題となっていました。それを初心者でも簡単にしたのが、バッファローが独自に開発した無線LAN簡単設定システム「AOSS」です。

「AOSS」なら、「AOSS」に対応した機器のボタンを押すだけで自動的に設定が行えます。すでに大手家電メーカーの製品に次々と採用されているのははじめ、SONYや任天堂のゲーム機などに搭載されています。

また、「AOSS」で培った技術をベースに、バッファローが提案活動に取り組んできた「プッシュボタン」方式が、Wi-Fiアライアンス(*)が策定した無線LAN簡単設定規格「WPS」に採用されました。このことは、バッファローがワイヤレスホームネットワークの発展を牽引するリーディングカンパニーとして世界に認められた証であり、また、世界中の無線LAN機器がボタン一つで簡単・安全につながる時代が到来することを意味しています。

*Wi-Fi(ワイファイ)アライアンス/無線LAN規格の標準化を推進する国際的な団体。



光メディアコンバータ

液晶ディスプレイ

ビジネススイッチ

コンシューマ向けネットワークストレージ機器市場で世界トップシェアを獲得

バッファローは、2006年上半期のコンシューマ向けネットワークストレージ機器市場調査において、世界トップシェアを獲得しました(*)。大容量から低容量まで用途に合わせて選べるラインナップを揃え、また、信頼性の高い製品を、低価格かつ簡単なセットアップで手軽に導入できる点が評価されたことによるものと自負しています。

また、バッファロー製品は、イギリス、イタリア、ドイツ、アメリカ、香港、台湾など、各国の専門誌から表彰されています。バッファローの受賞製品について、詳しくは当社ホームページ「栄光の殿堂」をご覧ください。

*米IT調査会社ABI Research社調べ



セキュリティ強化へのニーズに応える製品群

個人情報保護法、会社法、金融商品取引法などにより、保存データのセキュリティ強化は、企業においてますます重要な課題となっています。そのため、さまざまな記憶装置製品の需要が高まると同時に、高度な暗号化技術など、新たな技術ニーズが高まっています。バッファローでは、データを強制的に暗号化して保存する機能を備えたUSBフラッシュメモリや、指紋による本人認証に対応したUSBフラッシュメモリ、企業オリジナルのセキュリティ設定が可能なUSBメモリ用管理ソフトウェアなど、セキュリティ強化のニーズに応えるさまざまな製品を発売しています。



次世代の無線LAN規格に対応した製品を世界に先駆けて発売

高速インターネットを利用したハイビジョン映像配信サービスが始まるなど、インターネットの利用方法は、映像用途にも広がりを見せています。また、配線のわずらわしさのない無線LANを活用して、リビングだけでなく、寝室や子供部屋で映像を楽しみたいというニーズも高まりつつあります。

こうしたニーズに対応するために、バッファローでは次世代の無線LAN高速化規格「IEEE802.11n」に対応した製品「AirStation NFINITI」を世界に先駆けて発売しています。この製品は複数のハイビジョン映像の送信をも可能としており、さらに通信安定性にも優れ、障害物が多い環境でも安定して高速な通信ができます。これからもバッファローは、ハイビジョン時代のワイヤレスホームネットワーク構築に役立つ製品を開発していきます。



トピックス

Topics



小型ワンセグチューナ「ちょいテレ」が大ヒット

バッファローの小型ワンセグチューナ「ちょいテレ」は、多くのマスコミに取り上げられるほどの大ヒット商品となりました。この製品の特徴は、パソコンのUSBポートに挿すだけで、いつでもテレビ（ワンセグ）が見られること。さらに業界で初めて（※）録画も可能にしました。「ちょいテレ」を利用すれば、ワンセグチューナ内蔵の新しいパソコンを購入することなく、手持ちのパソコンでワンセグ放送を視聴・録画することができるため、その手軽さが人気を集めました。現在ではデータ放送対応の新機種も発売しています。

※ワンセグ放送が録画できるパソコン用USB対応ワンセグテレビチューナーとして。（2006年9月21日現在、当社調べ）



家庭用ゲーム機の無線LAN利用が拡大

任天堂の「Wii™」とSONYの「PLAYSTATION™3 HDD 60GB」、どちらの家庭用ゲーム機も、バッファローが開発・提唱している無線LAN簡単設定システム「AOSS」が搭載されています。また、SONYのHDDコンボ「ネットジョーク」も無線LANに対応していることが特色であり、そのワイヤレス化にバッファローの技術が生きています。

このようにバッファローは、ゲームや音楽の分野においても簡単・安全に無線LANを利用できる環境を提供し、一般家庭における無線LANの普及に大きく貢献しています。

オランダにヨーロッパ物流拠点を設置

バッファローは、オランダの中でもドイツ国境近くに位置するナイメーヘン市 (Nijmegen) に物流拠点を開設しました。ここでは、日本から送られてくる半製品の最終組み立ても行っており、ヨーロッパ各地の顧客へのよりスピーディーで効率的な対応を実現しています。バッファローは今後、英語圏だけでなく、ドイツ語・フランス語圏における市場開拓も目指していく方針です。

コクヨグループと提携

メルコグループは、2007年4月よりコクヨグループとの業務提携を開始しました。総合オフィスサプライヤーとしての強みを持つコクヨグループと、パソコン周辺機器に強みを持つメルコグループが、お互いの強みを生かすことで、オフィス向けの機能・製品の共同開発や、新会社を通じたPCサプライ製品の販売を強化することを目指しています。提携の一環としてコクヨグループの株式会社アーベルの株式を57.9%取得し、共同で経営にあたります。これにより、メルコグループはPCサプライ関連製品のラインナップを大幅に強化しています。

社会貢献活動

「未踏ソフトウェア創造事業」を支援

IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）では「未踏ソフトウェア創造事業」というIT人材発掘・育成事業を行っています。この事業は、次世代のIT市場創出を担う独創性と優れた能力を持つ研究者（スーパークリエイター）を積極的に発掘するとともに、開発に専念できる環境を整備することで、新市場を切り開くソフトウェアの開発支援を行うもの。メルコグループは、この事業におけるプロジェクト管理組織という役割を担い、事務処理などのマネジメントを支援しています。

「財団法人メルコ学術振興財団」を設立

メルコグループは創業30周年を記念する社会貢献事業として「財団法人メルコ学術振興財団」を設立いたしました。この財団は、日本の管理会計実務に関する研究への助成などを通じて、管理会計学の発展と普及、さらにはわが国の学術・文化の発展に寄与することを目的としています。管理会計の重要性がさらに高まりつつある中、この成果は広く社会に還元されていくものと期待しています。

能登半島地震で災害地区にFREESPOTを設置

FREESPOTとは、無線LANでインターネットにアクセスできる環境を開放し、自由に使うことができるエリア・サービスです。バッファローは、FREESPOT協議会の主宰として、その普及・拡大を推進しています。

また、愛知万博でソーラ飛行船によるインターネット通信実験を開始して以来、2005年には名古屋市の防災訓練に参加するなど、災害時の通信インフラとしての実証実験を重ねてきました。2007年3月に発生した能登半島地震では、災害地区における通信インフラの一つとしてFREESPOT導入キットを提供し、現地のボランティアの協力を得て3カ所に設置しました。地元の医師の方からは「緊急時の通信手段として有用」などのお声をいただきました。メルコグループは今後も災害時における情報収集・伝達手段としてのFREESPOT活用・推進に努めていきます。



FREESPOTに接続したパソコン

FREESPOT導入キット

能登半島被災地の様子

空に浮かぶソーラ飛行船（名古屋市の防災訓練）

財務情報

Financial Report

メモリ

新OSの発売を前にパソコンの販売がふるわず厳しい市場環境でしたが、懸命な販売努力によってメモリモジュールとフラッシュ製品のそれぞれが売上高を確保しました。また、第3四半期にメモリモジュールの部品原価が上昇し当期の減益要因になりましたが、期末・次期に向け回復傾向にあります。売上高は前年比5.7%増の407億95百万円となりました。

ストレージ

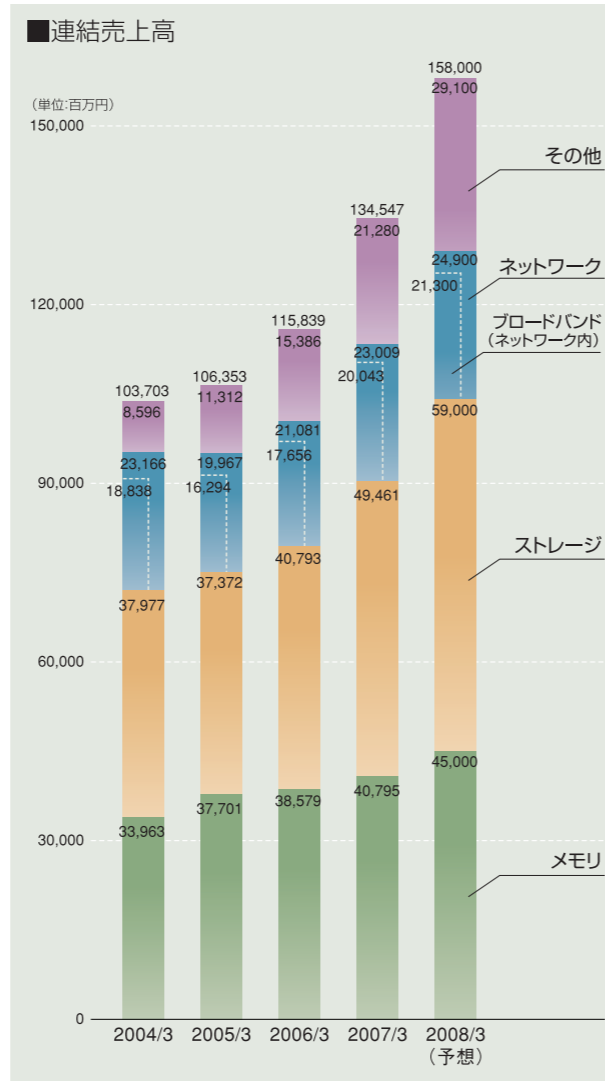
デジタルカメラやデジタルビデオカメラの普及、動画を活用したWebサイトの増加などにより、パソコンで動画を利用する機会が増え、ハードディスクの増設需要が高まっています。また、ネットワークハードディスクの販売が好調で海外の売上高を急成長させる原動力となりました。DVDやMOなどその他のドライブ製品の減少がありましたが、売上高は大幅に増加し、前年比21.3%増の494億61百万円になりました。

ネットワーク製品/ブロードバンド

当期は携帯ゲーム機、プリンタ、音楽プレーヤなど無線LANに接続される機器が増加し、ユーザ層が大きく広がりました。特に携帯ゲーム機でインターネットを利用するには無線LANが必要になるため、今後の需要増加にも期待が持てます。売上高は、前年比9.1%増の230億09百万円になりました。

その他の製品

ワンセグチューナ「ちよいテレ」のヒットにより、デジタルホーム関連製品の売上が大幅に拡大しました。また、マウスやキーボードなどのサブライ製品の売上が伸び、売上高は前年比38.3%増の212億80百万円になりました。

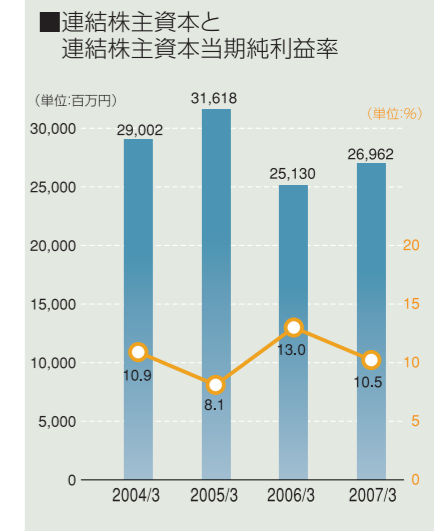
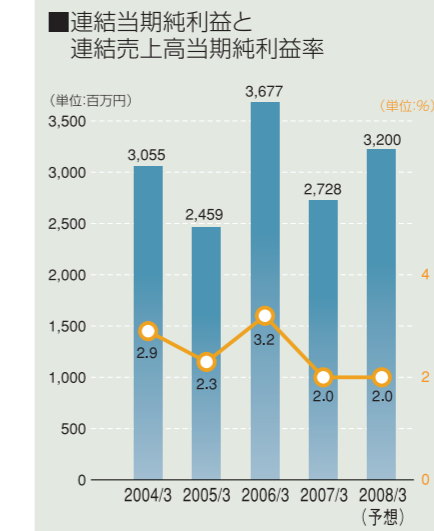
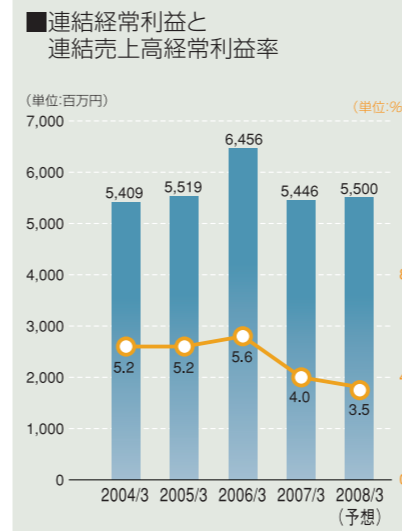
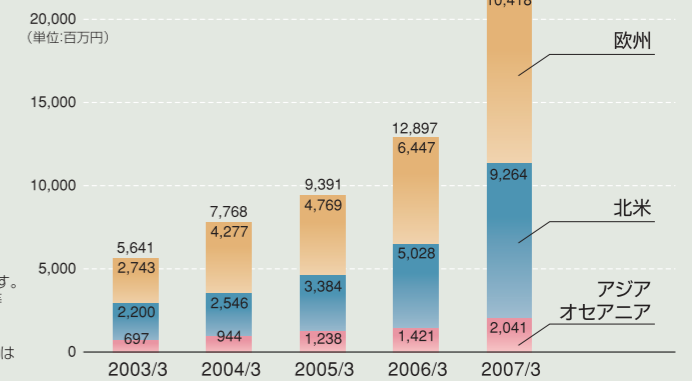


海外の売上

ネットワークハードディスク「TeraStation」が北米や欧米でパソコンの知識レベルの高いユーザ層に認知されBUFFALOをハイレベルのブランドに押し上げました。この「TeraStation」を中心としたネットワークハードディスクの売上拡大にメモリの販売増加が加わり、海外向けの売上高は前年比68.4%増の217億23百万円になりました。

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。
 2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 アジア・オセアニア・・・香港、台湾、韓国、オーストラリア等
 北米・・・米国、カナダ
 欧州・・・英国、ドイツ、オーストリア等
 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

海外売上推移



(見直しに関するご注意) 上記の業績予測は現時点で得られる情報に基づいて算定されたものであり、多分に不確実な要素を含んでいます。従って、実際の業績は業況の変化により業績予測と異なる場合があります。

財務情報

Financial Report



連結貸借対照表

(単位:百万円)

区 分	当 期	前 期
	平成19年3月31日 現在	平成18年3月31日 現在
資産の部		
流動資産	55,495	43,953
固定資産	7,079	7,743
有形固定資産	1,796	1,732
無形固定資産	502	109
投資その他の資産	4,780	5,901
資産合計	62,575	51,697
負債の部		
流動負債	34,545	25,630
固定負債	1,066	935
負債合計	35,612	26,565
(少数株主持分)	—	1
資本の部		
資本金	—	1,000
資本剰余金	—	1,927
利益剰余金	—	21,955
その他有価証券評価差額金	—	479
為替換算調整勘定	—	△ 210
自己株式	—	△ 20
資本合計	—	25,130
負債・少数株主持分及び資本合計	—	51,697
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	—
資本剰余金	1,927	—
利益剰余金	23,959	—
自己株式	△ 21	—
株主資本合計	26,866	—
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	259	—
為替換算調整勘定	△ 163	—
評価・換算差額等合計	95	—
新株予約権	1	—
純資産合計	26,962	—
負債・純資産合計	62,575	—

連結損益計算書

(単位:百万円)

区 分	当 期	前 期
	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
売上高	134,547	115,839
売上原価	116,369	98,376
販売費及び一般管理費	13,029	11,153
営業利益	5,148	6,309
営業外収益	436	236
営業外費用	138	90
経常利益	5,446	6,456
特別利益	259	33
特別損失	868	312
税金等調整前当期純利益	4,837	6,177
法人税、住民税及び事業税	2,109	2,465
法人税等調整額	△ 0	34
少数株主損失	0	0
当期純利益	2,728	3,677

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

区 分	前 期
	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
資本剰余金の部	
資本剰余金期首残高	11,677
資本剰余金減少高	—
自己株式消却額	9,750
資本剰余金期末残高	1,927
利益剰余金の部	
利益剰余金期首残高	18,834
利益剰余金増加高	—
当期純利益	3,677
利益剰余金減少高	—
配当金	523
役員賞与	33
利益剰余金期末残高	21,955

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区 分	当 期	前 期
	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,379	△ 239
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 710	75
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,993	△ 7,992
現金及び現金同等物に係る換算差額	69	310
現金及び現金同等物の増減額(減少は△)	△ 2,256	△ 7,846
現金及び現金同等物の期首残高	10,235	18,082
現金及び現金同等物の期末残高	7,979	10,235

連結株主資本等変動計算書

(自平成18年4月1日至平成19年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
平成18年3月31日残高	1,000	1,927	21,955	△ 20	24,862	479	△ 210	268	—	1	25,132
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 693		△ 693						△ 693
利益処分による役員賞与			△ 30		△ 30						△ 30
当期純利益			2,728		2,728						2,728
自己株式の処分				△ 0	△ 0						△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 219	46	△ 173	1	△ 1	△ 173
連結会計期間中の変動額合計	—	0	2,004	△ 0	2,004	△ 219	46	△ 173	1	△ 1	1,830
平成19年3月31日残高	1,000	1,927	23,959	△ 21	26,866	259	△ 163	95	1	—	26,962

会社情報

Company Data

メルコグループ

当社グループは持株会社である株式会社メルコホールディングスを中心に、事業会社である株式会社バッファローをはじめとする14社の連結子会社により構成されています。

株式会社メルコホールディングス

商号	株式会社メルコホールディングス (英文表記) MELCO HOLDINGS INC.	役員 (2007年6月28日現在)
設立	1986年(昭和61年)7月1日	代表取締役社長 牧 誠
資本金	10億円	専務取締役 斉木 邦明
事業内容	メルコグループの純粋持株会社 傘下事業会社の株式を所有し、事業活動支援・経営指導を通じて統括管理を行う。	常務取締役 牧 博道
従業員数	50名、メルコグループ連結824名	取締役 山口 英利
グループ企業	会社数14社(国内9社・海外5社)	取締役 牧 廣美
		取締役 津坂 巖
		取締役 松尾 民男
		常勤監査役 小林 清史
		監査役 西川 俊男
		監査役 川島 譲
		監査役 隅 朝恒

株式会社バッファロー

商号	株式会社バッファロー	役員 (2007年6月28日現在)
創業	1975年(昭和50年)5月1日	取締役会長 牧 誠
設立	1978年(昭和53年)8月5日	代表取締役社長 斉木 邦明
資本金	64億円	常務取締役 山口 英利
事業内容	パソコン・ブロードバンド関連機器の開発・製造・販売および 関連サービスの提供	常務取締役 西岡 孝行
従業員数	400名	取締役 豊岡 誠史
		取締役 松尾 民男
		取締役 続木 政直
		監査役 小林 清史

事業所

本社	〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15	TEL.052-619-1811 FAX.052-619-1800
東京支店	〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2 茅場町タワー	TEL.03-3523-3333 FAX.03-3523-3300
本社分室	〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 カミヤビル	TEL.052-251-6891 FAX.052-241-7979
名古屋支店	〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 カミヤビル	TEL.052-249-6600 FAX.052-249-6601
大阪支店	〒542-0012 大阪市中央区谷町9-1-18 アクセス谷町ビル	TEL.06-6191-1511 FAX.06-6191-1510
仙台営業所	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-22 宮城野センタービル	TEL.022-291-0311 FAX.022-298-9470
福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-12-1 アバンダント95	TEL.092-477-3711 FAX.092-477-3755
札幌営業所	〒060-0031 札幌市中央区北一条東1-4-1 サン経成ビル	TEL.011-200-8150 FAX.011-200-8151
テクニカルサービスセンター	〒457-8570 名古屋市南区豊田3-3-5	TEL.052-698-2455 FAX.052-698-2099



関連会社

日本

シー・エフ・デー販売株式会社

インターネット関連機器・コンピュータ周辺機器の販売
〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15
TEL 052-619-1311 FAX 052-619-7785

株式会社バッファロー物流

製品の梱包・出荷業務
〒456-0023 名古屋市熱田区六野2-1-3 中京倉庫内33号棟
TEL 052-883-3035 FAX 052-883-3042

株式会社バッファローリース

インターネット関連機器のレンタルおよびリース
〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2 茅場町タワー
TEL 03-3523-3354 03-3523-3300

オーブルネット株式会社

インターネット関連機器およびコンピュータ周辺機器の販売
〒456-0023 名古屋市熱田区六野2-1-3 中京倉庫内
TEL 052-882-3302 FAX 052-882-3302

株式会社メルコパーソナルサポート

人材派遣事業
〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 カミヤビル
TEL 052-251-6823 FAX 052-241-7979

株式会社バッファロー・IT・ソリューションズ

インターネット関連のサポートおよびサービス
〒457-8570 名古屋市南区豊田3-3-5
TEL 052-698-3076 FAX 052-698-3157

株式会社リパティシップ

インターネット関連サービス事業
〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2 茅場町タワー
TEL 03-3523-3368 03-3523-3300

株式会社アーベル

PCサプライ製品の開発、製造、販売
〒612-8379 京都府京都市伏見区南寝小屋町5 SRC内
TEL 075-621-9801 FAX 075-621-9811

アジア

巴比禄股份有限公司

インターネット関連機器およびコンピュータ周辺機器の製造・販売
4F,NO.18,LANE609,SEC.5,CHUNG HSIN RD.,SANCHUNG CITY,
TAIPEI HSIEN,TAIWAN
TEL 886-2-2999-9860 FAX 65-6622-0800

MELCO ASSET MANAGEMENT PTE. LTD.

資金の運用助言
16, Collyer Quay, #10-00, Hitachi Tower, Singapore 049318
TEL 65-6622-0888 FAX 65-6622-0800

米国

BUFFALO TECHNOLOGY (USA), INC.

インターネット関連機器およびコンピュータ周辺機器の販売・製造
11100 Metric Boulevard suite 750 Austin Texas 78758
TEL 1-512-794-8533 FAX 1-512-794-8520

欧州

BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED

インターネット関連機器およびコンピュータ周辺機器の販売
176 Buckingham Avenue, Slough, Berkshire SL1 4RD, United Kingdom
TEL 44-1753-555-000 FAX 44-1753-535-420

BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITED

インターネット関連機器およびコンピュータ周辺機器の製造
East Park, Shannon Free Zone, Shannon, Co. Clare, Ireland
TEL 353-61-708090 FAX 353-61-360140

株式情報

Investor Information

社名の由来

「メルコ」は「牧技術研究所」を意味しています

「MELCO」のMは創業者でメルコホールディングスの代表取締役社長である牧誠の姓、Eは技術力の「Engineering」、Lは研究所の「Laboratory」、COは会社の「Company」の頭文字をとり、創業の1975年以来、社名として使用しています。

「バッファロー」はパソコン周辺機器の「プリンタバッファ」に由来しています。

メルコが1982年に発売した内蔵型プリンタバッファは、印刷中でもパソコンが使える周辺機器として大ヒット製品となり、当社躍進の基盤となりました。その後、当社製品のブランド名を一般公募し、採用されたのが「BUFFALO」です。プリンタバッファを猛牛の“バッファロー”に重ね合わせ、たくましく成長する当社のイメージを表現するブランド名として採用されました。

■メルコグループのあゆみ

- 1978年 8月 ●音響機器製品の製造・販売を目的としてメルコを設立
- 1981年 7月 ●パソコン周辺機器市場へ本格参入
- 1982年 11月 ●プリンタ内蔵型のプリンタバッファを発売
- 1986年 7月 ●名古屋市天白区に(有)バッファロー(現(株)メルコホールディングス)を設立
- 1988年 10月 ●わが国初のEMS ボード(メモリ)を発売
- 1991年 10月 ●(株)メルコ(現(株)バッファロー)が日本証券協会へ店頭登録
- 1992年 1月 ●名古屋市南区に技術開発拠点「ハイテクセンター」(現(株)バッファロー本社)を開設
- 1992年 8月 ●LANを発売
- 1994年 2月 ●ハードディスクを発売 パソコン周辺機器の総合メーカーへ
- 1995年 1月 ●(株)メルコが名古屋証券取引所市場第二部に株式を上場
- 8月 ●(株)メルコが東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- 1995年 9月 ●(株)メルコが品質保証の国際規格ISO9001の認証を取得
- 1996年 9月 ●(株)メルコが東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場
- 1999年 1月 ●無線LAN市場に参入、「AIRCONNECT」を発売
- 2000年 10月 ●DDR 対応ノートパソコン用メモリの世界標準規格を開発
- 2001年 1月 ●(株)メルコが環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得
- 2003年 5月 ●(株)バッファローが(株)メルコホールディングスに商号変更、名古屋市中区に本店を移転
- 10月 ●(株)メルコが(株)バッファローに商号変更、名古屋市南区に本店を移転
- 10月 ●(株)メルコホールディングスと(株)バッファローが株式を交換 持株会社体制に移行
- 10月 ●(株)メルコホールディングスが東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場
- 2004年 1月 ●デジタルホームソリューションズ事業部を新設
- 2005年 3月 ●NTT 東西の「オンデマンドTV」に専用セットトップボックスの供給を開始
- 7月 ●(株)バッファローが名古屋市南区に「テクニカルサービスセンター」を開設
- 2007年 4月 ●(株)メルコホールディングスが(株)アーベルを子会社化
- 5月 ●(株)エム・ティー・エスが(株)バッファロー・IT・ソリューションズに商号変更

メルコホールディングス株式情報 (2007年3月31日現在)

決算日	3月31日
定時株主総会	6月
株主確定基準日	議決権行使株主3月31日 期末配当金受領株主3月31日 中間配当金受領株主9月30日
上場証券取引所	東証・名証一部
証券コード	6676
発行済株式数	23,125,773株(自己株式控除後 23,118,527株)
株主数	10,829名(2007年3月31日現在)
1単元の株式数	100株
公告の方法	電子公告 http://melco-hd.jp/koukoku/
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
同取次所	三菱UFJ 信託銀行株式会社全国各支店 ◎ 株式に関するお手続きについてご不明な点、確認したい点などがある場合は、三菱UFJ 信託銀行証券代行部までお問合せください。 TEL 0120-232-711 (土・日・祝祭日を除く9:00から17:00通話料無料) ◎ 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ 信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っています。 TEL 0120-244-479 (通話料無料) http://www.tr.mufj.jp/daikou/
幹事証券会社	(主)大和証券SMBC (副)野村證券、みずほインベスターズ証券、日興コーディアル証券